

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市天文台
2 指定管理者	株式会社仙台天文サービス
3 指定期間	平成20年7月1日～令和20年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 144,949人(前年度比 88.3%) 令和5年度 164,238人(前年度比 136.2%) 令和4年度 120,596人(前年度比 114.3%) 《事業》 天体観測の指導助言及びプラネタリウムによる天体現象の解説、天文科学に関する観測研究並びに資料の収集・保管及び展示、天文科学の普及啓発に関する行事の開催及び刊行物の発行、学校理科教育における天体の観察実習の指導助言等
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 736,709円(735,626千円) ※PFI事業のサービス購入費施設整備費相当分を含む ・ その他市が負担した費用 41,548千円(1,202千円) 《収入》 ・ 使用料収入 51,729千円(53,852千円) ・ その他収入 46千円(42千円)
6 利用者の声	《実施状況》 施設内のアンケート用紙の設置及びウェブサイトにて利用者の声(意見・要望)を把握している。また、寄せられた意見等に関する統計的な分析を行い、施設の維持管理・運営業務の改善に活用している。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的や役割を十分理解した上で、市民の宇宙に関する興味・関心に応え、宇宙・天体に関する知識を深め、様々な体験を提供できるよう、天文台・科学博物館としての更なる質の向上に取り組んでいる。	33/33
II 施設の運営管理体制	各業務に必要とされる資格や専門的な知識を有する職員を適切に配置し、施設の設置目的を踏まえて運営を行っている。また、事故防止や災害発生等の非常時の対応等について、台内ミーティング等を適宜開催し、その場において関係者間で必要な情報共有が図られ、改善策の検討・実施がなされている。また、スタッフサポーター(市民ボランティア)に対しても、スキルアップ等の支援を実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	利用者が快適かつ安心して施設を利用できるよう、建築・設備の保守、清掃、警備等に加え、施設の特徴を十分に考慮し、施設各所の維持管理に努めており、今年度運用開始の市の制度「せんだいクーリングシェルター」に対象施設として登録し、市民の夏季の暑さ対策に寄与した。 また、来場者が多く見込まれるイベント時には警備・誘導の特別体制を組み、利用者の往来トラブル防止に尽力するなど、利用者への案内・施設利用時の安全対策が適切に行われている。併せて、ごみの分別や省エネルギー等の環境負荷の低減に資する取り組みを行っている。	24/24
IV サービスの質の向上	より多くの方々に宇宙を身近に感じ、親しみや興味を持ってもらうため、展示ツアーや天文・宇宙にまつわるワークショップの回数増、中学校天文台学習の内容見直しなど、天文分野の理解促進のための取り組みのほか、天文分野以外の様々な分野の関係者との連携企画などを実施し、利用者増や地域の賑わい創出のための様々な事業を積極的に展開している。各事業の広報に際しては、広報誌や天文台ウェブサイト、YouTube・インスタグラム等のソーシャルメディアなど多様な手法を用いて幅広く事業の周知に努めている。また、幼稚園・保育所の天文台学習の予約方法の見直しによる利用者負担の軽減や、「ミュージアムショップ」や「そらカフェ」の設置などにより施設利用者の利便性の向上を図るなど、利用者ニーズや満足度を意識した事業運営を行っている。	28/28
V 施設固有の基準	経営の健全性を確保するため、施設運営に関連する各保険への加入など、リスク管理を適切に行うとともに、PFI事業の要求水準を十分理解し、これを達成するために常に努力している。天文台開台70周年記念企画や、利用者ニーズ・社会情勢を踏まえた独自事業を展開するとともに、「低緯度オーロラ」「センダイヘンジ」などの市民の関心の高い天文現象の観測の際、見どころの解説や観測結果を幅広く周知するなど、施設や実施事業の認知度の向上と更なる利用促進を図っている。また、3年間の中期計画(令和5～7年度)に基づき、事業ごとに実施目的を明確化し、各年度の事業結果を検証しながら、その成果を更に高めるため、鋭意努力している。	10/10

三 評価総括

《指定管理者（株式会社仙台天文サービス）による自己評価》
本年度は新型コロナウイルス感染症に係る国の法規則変更に伴い策定した感染防止に係る実施事項の運用を継続した。 本年度の入館者数及び観覧料収入は、実入館者数144,949人（前年度164,238人）、使用料収入は51,775千円（前年度53,894千円）となった。事業計画は、『宇宙を身近に』を施設の使命として、市民に親しまれる施設、憩いの施設として、仙台市の要求水準を着実に実行するとともに、社会教育・生涯学習施設としての価値を高める施設の運営に取り組んだ。 中期計画においては、2023年度から導入した社会的インパクト・マネジメントの考え方である『宇宙が身近な社会～市民の天文学リテラシーの向上～』を最終アウトカムに設定した上で、事業の実行や分析、改善に継続して取り組んだ。 また、施設の基本理念である『宇宙や天体を通して市民が自然や科学を学び、仙台市の文化・教育水準の向上に貢献すること』に関しては、施設やスタッフの充実を図るとともに、地元教育研究機関との連携強化により活動の場を広げ、天文分野の教育をより専門的に行う、社会教育施設として天文学の普及啓発に寄与してきた。 更に、各種イベントや毎週土曜日に開催する土佐名誉台長によるトワイライトサロン等を通じて『賑わいの創出』を意識した活動を行ってきた。 ユーザーから頂いた貴重なご意見、ご要望を改善に繋げる『来館者アンケート』では、お客様からの『声』を基に、随時適切に対応し、合わせてNPSシステムの導入により、お客様のニーズと達成度を客観的に評価しながら台内会議等で改善事例を共有、確認し、掲示板やWebサイトで公表している。 2025年度も市民の方々や来館者のニーズに応える施設となるようスタッフ一丸となって取り組んでいきたい。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
今年度の施設入館者（利用者）数は、前年度比約12%の減少（144,949人）となり、増加傾向であった昨年度から状況が変化し、特に期間前半の減少が顕著であったが、これは昨年度のプラネタリウムリニューアルによる増加からの反転の影響が大きく表れたものと推察される。 施設運営に際しては、市民の安全かつ快適な利用のため、市の新制度「せんだいクーリングシェルター」に登録し夏季の暑さ対策に寄与するとともに、各設備の維持管理業務（関連工事、設備修繕等）に際しては、経費節減・作業効率化・長寿命化等の多様な観点から、状況に応じて最も有効と考えられる方策を確認・検証したうえで実施している。 今年度の各事業の実施に際しては、広報誌や新聞、マスメディア等に加え、ウェブサイトやSNSなどの多様な広報ツールを活用し、施設関連情報を市民等に幅広く周知し、来館や事業への参加を促している。併せて、利用者の満足度や利便性の向上のため、ウェブ対応可能な利用者アンケートにより利用者ニーズの把握に常に努めており、それに基づく改善策の一環として、幼稚園・保育所の天文台学習の予約受付方法について、利用者が架電する従来の方法から、天文台が利用者へ架電する方法に変更するなど、利便性の向上を図った。 また、時節や社会情勢を捉えた新しい取り組み、多様な分野の関係機関との連携企画の開催に加え、既存事業の検証や再構築の実施、ミュージアムショップ・カフェの円滑な運営なども含めて、常にサービス水準の向上を意識した取り組みを行っている。更に、今年度の移動天文車の車両更新業務に際しては、稼働休止時の代替事業の実施などを行い、当該業務の円滑な遂行に貢献した。これらの取り組みは、運営事業者の対応として十分に評価できる内容である。 今後も、利用者の意見や要望、運営上の問題点や事故対応等に関して職員会議で共有し、組織的に検討・策定した改善策を実施するという運営サイクルを基本とした体制をベースとして、多くの方々が天文台や天文・宇宙に興味を持って来館し快適に利用できるよう、施設の環境整備に努めるとともに、地元大学をはじめ関係機関や地域団体等、多くの関係者と連携して施設の賑わい創出を図り、天文台事業が更なる発展を遂げることを期待する。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
特になし

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局生涯学習部生涯学習課